

平成21年度事務事業評価シート（20年度実施事業分）

事業番号		15 07 03	中期総合計画主要施策番号		4-02	担当課	部・課	教育委員会事務局 文化財・生涯学習課		
事業名		青年の家・少年自然の家主催事業					内線	4405		
							E-mail	bunsho@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	・青少年団体指導者の養成と資質の向上を図り、青少年の活動を促進する。 ・自然体験や共同体験を通して、不登校児童生徒の学校生活への復帰を支援する。 ・世代間の交流を促進し、青少年の健全な育成を図る。								
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] 青少年団体指導者参加者の減少にともない、青少年の体験活動や交流活動、他者とのコミュニケーションを図る機会が減少している。また、不登校児童生徒数が多い状況にあるなど、青少年の社会的自立の遅れ等が指摘されている。 [原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] 学校・家庭・地域を取り巻く環境の変化により、地域の教育力が低下している。そのため、生活体験や異年齢の多くの青少年が交流する機会提供が減少し、自ら課題を見つけ判断していく、いわゆる「生きる力」の育成が不足している。 [課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] 自然体験活動における効果的なプログラムの開発、共同生活体験や野外活動、あるいは異年齢交流を通して、豊かな情操や社会環境を培い、青少年の健全な育成を図ることが必要である。								
		事業内容	・青年団体指導者研修(青年の家2所で各6回) ・少年団体指導者研修(少年自然の家2所で各1回) ・ふれあい自然体験活動推進事業(少年自然の家2所で各1回)							
		実施期間	S42	～	根拠法令等	社会教育法、長野県青年の家設置条例、長野県少年自然の家設置条例、生涯学習振興法				
	成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価	
青少年団体指導者を養成し、その成果を地域で活かす機会を提供できるようにするとともに、共同宿泊体験や野外活動を通し、豊かな情操や社会性、生きる力を培えるようなプログラムを提供する。		各家で下記のとおり各種事業を実施する。(募集者数840人) ・青少年団体指導者研修(740人募集) ・ふれあい自然体験活動推進事業(100人募集)			下記のとおり、各種事業を実施し、募集者数の約80%(670人)の参加が得られた。 ・青少年団体指導者研修(580人) 参加者の90%以上が内容に満足し、参加してよかったと回答している。 ・ふれあい自然体験活動推進事業(90人) 参加者の70%以上が、「進んで行動するようになった」「自分のことは自分でするようになった」と回答しており、長期の宿泊・自然体験を通して、「生きる力」の育成につながっている。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下			
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円	3,947	3,461	2,208	国庫・県単 県単			
	決 算 額 (B)		千円	3,007	2,826		実施方法 直接			
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	3,007	2,826	2,208	歳出節別内訳等			
	概 算 人件費	従事する職員数	人	3.61	3.27	3.27	報償費:1,115 旅費:1,175 需用費:218 使用料及び賃借料:192			
		概算人件費 (C)	千円	25,775	23,377	23,377				
概算事業費 (B(H21はA)+C)		千円	28,782	26,203	25,585	(単位:千円)				
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	青少年団体指導研修		回	14	14	10	4所で行われた主催事業 回数(募集人員)・42回(3,116人) 参加者数・……・3,387人			
	ふれあい自然体験活動推進事業のべ参加人数		人	186	167	200				
事業課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判 定 の 説 明 ・アンケート結果より、多くの参加者が内容や運営等に満足している。指導者養成や自然体験、異年齢交流の機会を通して、他者とのコミュニケーションを図りながら、主体的に人間関係を築いていく力を養っているという点で、成果が得られていると考えている。 ・指定管理者制度導入の検討により、効率性を高める余地がある。				
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	課題の総括		・家庭や学校では得られない体験をさせながら、心身ともに健全な青少年の育成を図る社会教育施設として、家の事業は重要な役割を果たしている。また、市町村単位を超えた広域レベルでの事業企画・参加募集があり、充実した質の高い自然体験学習や研修を提供している。今後は、関係機関や民間団体との連携や、ボランティアなどの協力を得て、家でしかできないプログラムの開発と効率的な事業運営を行っていく必要がある。 ・今までの成果も踏まえ、青少年健全育成の観点から、指定管理者制度導入後も、同等の事業が実施できるようにする。							